



- 主要諸元：(Limited 4xe)
- 全長×全幅×全高／4,255×1,805×1,695mm
 - ホールベース／2,570mm
 - トレッド／前：1,540mm 後：1,540mm
 - 車両重量／1,790kg
 - 最小回転半径／5.5m
 - エンジン／1,331cc 直列4気筒インタークーラーターボ
 - 最高出力／131ps 5,500rpm
 - 最大トルク／27.5kgf.m：1,850rpm
 - フロントモーター
最高出力／45ps
最大トルク／5.4kgm：8,000rpm
 - リアモーター
最高出力／128ps
最大トルク／25.5kgm：2,000rpm
 - WLTCモード燃費／18.5km／ℓ
 - ミッション／6速AT
 - ブレーキ／前／ベンチレーテッドディスク
後／ディスク
 - タイヤサイズ／235/55R17
 - 駆動方式／4WD
 - 乗車定員／5名
 - 車両本体価格／4,980,000円(税込)

「9年2月にマイナーチェンジが行われているが、全体から受ける印象はあまり変わっていない。すでにデビューから6年が経過しているにも関わらず、いまだに新鮮味を感じるデザインは非常に優秀。全長が4,255mmと短い一方、全幅が1,805mmあるため、見るからに安定感がある。クラスが違ってもジープのブランドをしっかりと感じさせるのは、優れた基本デザインの賜物だろう。事実、このサイズ感是非常に扱いやすく、毎日のショッピングや狭い雪道での運転においても、ストレスを感じることはなさそうだ。

インテリアも非常に洗練されている。8.4インチタッチパネルモニターをはじめ、4xe専用フルカラー7インチマルチビューディスプレイなど、いかにも現代車たる装備を持つ。後部座席は足元に余裕があり、身長170cmのレポーターが座っても頭上に拳1・5個分のゆとりがある。またリアラゲッジも必要十分なスペースを持ち、ファミリーカーとしてもかなり優秀なパッケージングであると言える。

ダッシュパネル中央下部に電動4×4システムの切り替えスイッチがあり、様々な路面状況で正しい走破性を発揮するセレクトレインシステムを操作できる。AUTO、SPORT、SNOW、SAND/MUD、ROCKの5モードを手動選択できる上、4WD LOWのスイッチが別にあるため、

新世代のインテリアと、進化する4WD機能

万一圧雪やぬかるんだオフロードに進入しても慌てる必要はない。駆動系のスイッチ類が唯一、Jeepであることを主張するのみで、デザインとユーティリティは非常に現代的。もちろん従来の無骨なオフローダーが好きな方はいるだろうし、その気持ちもよくわかる。その場合はラングラーという魅力的な車種が用意されているし、レネゲードのサイズが良いということであれば、ぜひ現車を確認してほしい。

4xeシステムの革新性には目をみはるものがある

さて具体的に4xeの特徴を見ていこう。PHEVなので外部電源から充電が可能。そしてHEVなのでエンジンとモーターを適切に制御しながらの走行が可能。後輪はモーターで駆動するため、プロペラシャフトやデフはない。誤解を恐れずに言えば、FFのエンジン車にFRのモーター車が合体した駆動系である。つまり機械的に駆動力配分やデフロックを行う従来の4WDとは異なり、エンジンとモーターを完全に電子制御している。実はかなりすごいシステムなのだが、驚きはまだある。3つの走行モードを選択可能なのだが、ELECTRICモード時、48kmのモーター単独走行が可能なのだ。HYBRIDモードではガソリンエンジンとモーターを自動制御、E-SAVEモードではバッテリーの充電レベルを維持するようエンジンを主に使用する。ちなみに2基のモーターのうち1基はフロントアクスル上でエンジンと接続され、相乗



革新性と伝統が同居する魅力的なコンパクトSUV Jeep Renegade 4xe

■テキスト=横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=インポートプラス 札幌美国店 TEL(011)822-8225

「プロフィール」 ひしめき合うSUVの中で 光る「反逆者」

世界中のオフロードファン、SUVファンを魅了してやまないJeep。そのコンパクトSUVレネゲードに、プラグインハイブリッド車(以下PHEV)「4xe(フオ

ー・バイ・イー)」が追加された。もちろんJeep史上初であり、国産車を含めてもSUVのPHEVは数えるほどしかない。レネゲードの日本発売は'15年。'12年に先行して日本デビューしたコンパスという兄弟を持ち、コンパスが'16年にフルモデルチェンジした際、レネゲードの「スモールワイド4×4アーキテクチャー」をもとにホールベースを延長している。またレネゲードには基本メカニズムの大半を共用するフィアット500Xという兄弟車もある。

外装デザインにはラングラーやチェロキーのモチーフが取り込まれ、Jeepの伝統とイメージをしっかりと継承。印象的なストップランプのX型デザインは、'40年代にアメリカ軍がガソリン運搬に用いたジェリー缶をモチーフにしており、FCA(フィアット・クライスラー・オートモービルズ)の一員ではあるものの、やはりアメリカ生まれのブランドであることを感じさせてくれる。そしてJeepといえば伝統的な4WDシステム。今回追加された4xeにおいても、その高い走破性は一切犠牲にされていない。むしろモーターを駆動力に用いることで4WDの新しい時代に挑戦している。さらに、331cc直列4気筒というダウンサイジングエンジンを搭載し、エコ志向にも真正面から取り組んでいる。ちなみに車名であるレネゲードとは、英語で「反逆」を意味する言葉。レネゲードの存在はFCAグループのみならず、世界中のSUVにおいて、まさに反逆者のような革新性を持っている。

ディーラーメッセージ

インポートプラス
札幌美園店

野村 大和さん

高い走行性能と伝統に裏づけされた魅力を持つJeepから、革新的な4WDシステムを搭載したレネゲード4xeが登場しました。2つのモーターとエンジンを自動制御するこのシステムは、これまで幅広い人気を集めているJeepの走行性能をより進化させた最先端の技術。エコ性能や各種安全装備も充実し、非常に魅力的な1台となりました。冬道はもちろん、大自然のフィールドへ出かけられる際、頼もしい相棒になること間違いありません。ご来店・ご試乗、お待ちしております。



効果を生み出すほか、高電圧ジェネレーターとしても機能する。もう一基はリアアクスル上に置かれて後輪を駆動させるほか、減速時に回生ブレーキ機能も持つ。なんとも革新的である。このシステムを一般乗用ではなくレネゲードで実現した開発陣に拍手を送りたい。

なお前面衝突警報、車線逸脱警報、ブラインドスポットモニター、リアバックアップカメラなど、活用頻度の高い安全装備はしっかりと備えている。至れり尽くせりの国産車と比較すると物足りないように見えるかもしれないが、あくまでもデイルーユースを踏まえ、必要十分な装備だと思う。

— インプレッション —

時代を見越した、
価値あるコンパクトSUV

取材当日は全国的に寒波が襲来し、札幌も朝から雪が舞い散っていた。しかしなんといてもJeepである。撮影地に到着して間もなく、足跡もタイヤ跡もない新雪に踏み入れてみた。通常走行モードではスタックしうになつたので、迷わず4WDLOWを選択するとなんなく脱出に成功した。この頼もしさこそJeepの魅力。実は、モーターを用い総合的に制御する4WDがあれば良いなど前々から思っていた。アウトドアが好きな方々は基本的に自然が好きはず。少なからず排気ガスを放出する自動車、自然の中へ立ち入ることに罪悪感を覚えるのはレポーターだけではないはずである。4xeが独自の価値感を見せつけるシーンの一つがここにある。

路面の雪が溶け出し、うっすらとアスファルトが見えるようになったので、今度は常用地での走行チェック。アクセルに力を込めると、タコメーターの針が跳ね上がり、面白いように加速していく。2.5リッターNAクラスに匹敵する加速感である。しかも明確なターボラグや、エンジンとモーターの切り替えに伴うもたつきなどが一切ない。またボディ剛性が高く、ステアリングに対するボディの反応も小気味良い。つまりオンロードでも、その高い走行性能を味わうことが可能なのだ。雪道においてはことさらに、安定感・安心感の面で4xeの実力を思い知らされることになる。

さて4xeがどのように市場に受け入れられていくか非常に興味があるのだが、ノーマルのレネゲード368万円に対し、4xeは498万円である（ともに税込）。4xeの革新性と走行性能、さらにはエコカー減税対象であることを鑑み、130万円の価格差をどう捉えるか。個人的には大いにアリだと思う。周知の通り、政府は30年までにガソリン車全廃を打ち出している。排気ガスによる大気汚染と地球温暖化対策は待たなしなのである。ただしEVでは「充電インフラが不安」と感じる人が多く、二の足を踏んでいる状況と感じる。やはり現在手に入るベターなエコカーはHEV/PHEVということになる。そう考えた時、モーターを制御する最先端の4WDシステム・現代的なインテリア・使い勝手の良いサイズ・エコ性能、そしてなにより伝統あるブランド力を兼ね備えたクルマは決して多くない。レネゲード4xeは、極めて魅力的で価値ある一台と断言できると思う。